

4.4. 町田 修氏（株式会社スターフライヤー 代表取締役社長執行役員）

「地域の優位性を生かし、稼げる豊かなまちを目指していく」



町田 修（まちだ おさむ）

久留米市出身。

東京大学法学部卒業。

全日本空輸に入社以降、米州室マネジャー兼ロサンゼルス支店マネジャー、財務部副部長、スカイネットアジア航空(株)常務取締役、ANA ウイングス(株)取締役、全日本空輸香港支店長などを歴任。

2022年6月に(株)スターフライヤー代表取締役社長執行役員に就任。

「各々の地域の良い個性から軸づくりを」

中高時代は、県内の久留米で過ごしましたが、当時は「北九州市」と言われても印象が薄かった記憶があります。理由は、「小倉」、「門司」といった、旧五市の個性が色濃くあったことに起因していると思います。すなわち、旧五市のそれぞれの地域が歴史を背負っており、その個性は大事にするべきものであると考えます。

一方、都市を一言で表すと、例えば福岡市を商業都市とするのであれば、北九州市は産業・工業都市と言えます。この産業・工業都市として、旧五市各々の地域の良さをどう活かしていくか。一つの「北九州市」としてのイメージは、「バラバラ感」「あいまいさ」があるので、軸をどうつくるのかがポイントでしょう。

「交通・物流インフラの再構築、産業振興」

北九州市には様々なポテンシャルがあると感じています。一例としては、実は資産を持った方の多い都市ということです。これは培ってきた歴史のなせる業であると考えていますが、門司は元々貿易都市ですし、その他産業・工業都市として、中小企業の厚い経営者層がいるということでしょう。したがって、産業・工業都市として、もう一度軸を再構築してはいかがか

と考えます。

何と云っても、産業がなければ、人は集まってくるません。その中、北九州市の特徴としては、学校が多く、また産学連携ができる場があります。人を集め、IT産業などを育成していくことが重要です。軸は産業・工業都市にありますが、このような産学連携ができる点も強みであると思います。

そして、地理的な優位性もあり、特にインフラは強みでしょう。言わずもがな、北九州空港を中心にどう活用していくかといったこともポイントです。

具体的には、直近でいた香港で経験したのですが、熊本をはじめ、九州の農産物がアジアから注目されています。九州はアジア圏という認識で、地理的・経済的な近さもあります。北九州市においては、24時間空港を有し、空港と高速が近く、加えて熊本や大分も近いといった優位性があります。これらを活かした物流拠点としての軸を形成していくことも考えられるのではないのでしょうか。

したがって、北九州空港、小倉駅、門司をはじめとした港を中心として、交通・物流インフラをどう再構築するか、香港などを参考に研究しても良いかもしれません。

例えば、北九州空港を貨物空港として発展させるにあたっては、物流インフラ、特に輸出入貨物については、保税・通関の問題があります。貨物を蔵置するにあたって、現状は貨物を留めておく機能が十分ではありません。そのため、今後、物流施設や機能について、ハード・ソフト両面から、検討が必要となってくるでしょう。その際は、すでに貿易港である門司にはありますが、空港における CIQ（税関・入管・検疫）機能の拡充も視野に入れていく必要があると思います。

一方で、航空貨物は、軽く単価の高いものの輸送に適しています。その需要については、市内に複数の半導体関連の工場があり、熊本では TSMC も操業を始めるなど、大きなチャンスと言えます。さらに、市内への新たな工場の誘致も可能ではないでしょうか。これらを活かして、新たな産業・工業都市としての基盤づくりが重要です。

併せて、企業の既存物流を変えるよう意識していくことも必要です。すでにヤマト運輸㈱が貨物専用機を運航し、空港を活用した新たな物流網を構築する予定となっていますが、その他のフォワーダーの拠点なども市内に持って来るとも考える必要があります。

「稼げる豊かなまちを正々堂々と目指す」

「稼げる」ことは大事であり共感する部分です。「豊か」はありふれた言葉ですが、金銭的な豊かさを意味することが多いと思います。それを正々堂々と言っていくべきではないでしょうか。

歴史的に積み上げてきた産業基盤を活かして、所得水準の高い、豊かなまちを目指す。そうすれば、若い人たちも高い給料で働けるようになる。それだけの素地が北九州市にはあると思いますし、そういった魅力を若い人たちに発信し、認知させていくことにも注力していかなければなりません。

ちなみに文化面については、後からついてくるものだと考えています。北九州市では高齢者も元気なので、それも活かしながら、若い人たちをひきつけるまち、稼げるまちになることが重要です。

人口減少の中で、一世帯あたりの人数は減る一方、世帯数は増加しています。北九州市は暮らしやすいまちであることに間違いはありません。例えば、小倉は東京へのアクセスも良く、非常に便利なまちだと思います。その中で重要なのは、やはり仕事・職場があるか否かでしょう。

その点で企業誘致は欠かせません。昨今、北九州市においても、データセンターや DX の拠点などの開設が実現していますが、既存の企業や研究所の誘致に加えて、起業できる環境づくりも大事です。学研都市等において、それらも芽を出してきているように感じています。このように、スタートアップなどの企業が生まれてくる活気溢れるまちとなっていけば良いですね。